

令和8年3月12日

瀬戸市議会議長 富田 宗一 様

厚生文教委員会 委員長 戸田 由久

厚生文教委員会 行政視察報告書

本委員会は行政視察を実施しましたので、下記のとおり報告いたします。

記

| | |
|------------|---|
| 1 視察期間・行程 | 令和8年1月29日(木)～30日(金) 詳細は別紙のとおり |
| 2 視察先 | 東京都武蔵野市 (人口 148,025人 令和7年12月1日現在) 東京都多摩市 (人口 148,229人 令和7年12月1日現在) |
| 3 視察項目 | 東京都武蔵野市 「武蔵野プレイスについて」 東京都多摩市 「多摩市立中央図書館について」 |
| 4 視察者及び随行者 | 視察者 厚生文教委員会委員 委員長 戸田由久 副委員長 颯田季央 委員 三宅 聡、原 誠、小澤 勝、 馬嶋 みゆき、高桑 茂樹、三木 雪実 随行者 図書館長 吉村 きみ 議会事務局 林 友希 |
| 5 その他 | なし |

「武蔵野プレイスについて」

| | |
|--------------------|--|
| <p>1 事業の目的及び経緯</p> | <p>武蔵野プレイスは、図書館を中心に生涯学習、市民活動支援、青少年活動機能を備える複合施設である。</p> <p>市民の利便性を考えた駅前立地であるということもあり、開館から15年を経過した現在でも年間100万人を超える来館者を維持している。</p> <p>この施設は、これまでの図書館の考え方のように、静かに本を読むという概念から、市民の交流の場、学生たちのグループワークの場、一人一人が静かに読書、勉強できる場、子ども達が楽しく声を出しながら本を読む場など、多世代の市民がそのニーズに合わせて、人が集まり、関係が生まれる拠点として機能している。このことは、武蔵野プレイスの設立理念を良く具現化できている。</p> <p>特筆すべきは、市民の交流の場として併設されているカフェでアルコールが販売されていたことである。これは、今までの図書館のイメージを180度変えるものだと感じた。</p> |
| <p>2 事業の概要</p> | <p>ひと・まち・情報 創造館 武蔵野プレイス</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2011年7月開館 ・地上4階、地下3階 ・延床面積 9,809.76 m² ・開館時間 9:30~22:00 (水曜日休館) ・年間来館者数 169万1328人 (2024年度) ・管理運営 公益財団法人武蔵野文化生涯学習事業団 ・機能 4つの機能を備えた複合機能施設 <p>①図書館機能 (滞在型の図書館)</p> <p>②市民活動支機能 (市民活動の「出会い」と「場」)</p> <p>③生涯学習支援機能 (さまざまな学びの欲求に応える)</p> <p>④青少年活動支援機能 (居場所づくりから地域へ)</p> <p>これらの機能を積極的に融合させ、図書や活動を通して、人とひとが出会い、それぞれが持っている情報 (知識や経験) を共有・交換しながら、知的な創造や交流を生み出し、地域社会 (まち) の活性化を深められるような活動支援型の公共施設を目指している。</p> |

| | |
|----------------------|--|
| 3 事業の効果 | 年間 100 万人を超える利用者を 15 年以上維持している実績からも理解できるように、施設の理念、目的である生涯学習、市民活動支援、図書館機能が市民ニーズに十分応えていると判断できる。施設が所有する滞在、交流、学びが生まれる場としての機能一つ一つが再定義され、利用し易い工夫が市民の知的欲求を十分に満たす場として受け入れられている。 |
| 4 事業の現時点での課題及び今後の方向性 | 同規模都市の中で全国 1 位の利用者数であるこの施設について、現時点で課題として認識できるようなことは無いと言って良い。あえて言えば、時代と共に移り行く市民ニーズをどう捉え対応することができるか。又、新たな施設の利用方法を創り、市民にどう提案して行くかを具現化することである。 |
| 5 主な質疑・応答 | <p>Q：なぜ図書館を核とした複合施設としたのか A：年齢・目的を問わず利用しやすい図書館を軸にすることで、市民活動や青少年機能との相乗効果が生まれ、交流や学びが自然に発生するため。</p> <p>Q：駅前立地にこだわった理由は A：公共施設を「目的地」ではなく、「日常の延長で立ち寄れる場所」とするため。駅前が多世代が集まりやすい。</p> <p>Q：長期的な検討が必要だった理由は A：将来像の共有、市民意見、専門的議論を重ね、短期的整備ではなく長期的なまちづくりの視点を重視したため。</p> <p>Q：武蔵野プレイスは分館との位置づけだが、武蔵野市立中央図書館との棲み分けをどうしているか A：中央図書館は収集・保存・行政機能を担い、開館時間は土日祝 18 時までなど制約がある。 武蔵野プレイスは全開架で可視性を高め、複合機能と長時間開館で市民サービスを強化。指定管理により分館でのサービスを深化し、中央館は集積など本来の図書館機能を担う基幹的役割に注力。</p> |
| 6 考察 (所感・本市への提言等) | 今回の視察は、10 年後 20 年後の新しい瀬戸市の図書館のあり方というテーマで、同規模都市の中で利用者数、1 |

| | |
|------------------|---|
| | 位と3位の図書館を視察した。従って、それぞれの施設の特徴はあるものの考察、所感は視察テーマが同じであるため、多摩市の視察所感のところで総評的に述べる。 |
| 7 その他 (特記事項等) | |

「多摩市立中央図書館について」

| | |
|--------------------|---|
| <p>1 事業の目的及び経緯</p> | <p>多摩市立中央図書館も武蔵野プレイスと同様、年間 100 万人を超え同規模都市の中で第 3 位の利用者数のある図書館である。落ち着いた都市公園と一体となった美しい図書館である。</p> <p>1 階は静かな読書、調査研究スペースであり、2 階は会話可能な広場型空間として明確に利用者ニーズに合わせて、ゾーニングされている。</p> <p>この施設も、単に本を借りることを中心とした図書館から、人が集い、学び、交流する拠点へと機能を拡張している。これらの機能を充実させるため、開放感を演出する窓を多く取り入れた空間や学習席数を充実させ、カフェの併設までされている。</p> |
| <p>2 事業の概要</p> | <p>多摩市立中央図書館</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和 5 年 7 月に旧西落合中学校跡地から移転 ・地上 2 階、地下 2 階 ・延床面積 5,439.26 m² ・開館時間 9:30~20:00 (第 1・第 3 木曜休館) ・年間来館者数 854,098 人 (※R6.8 月に 100 万人突破) ・管理運営 多摩市 ・主な特徴 <ol style="list-style-type: none"> ①都市公園 (多摩中央公園) 内に建設した図書館 ②敷地の高低差を活かした地上 2 階、地下 2 階の 4 階層の建物 ③多摩中央公園の大池に面する地上 2 階のフロアは読書もおしゃべりも楽しめる「広場系開架」の位置づけ。一般開架・子ども開架のほか、ラーニングコモンズやおはなしの部屋、カフェを整備 ④地上 1 階のフロアは多くの蔵書を有し、静かな環境で読書を楽しめる「静寂系開架」の位置づけ。静寂読書室や個人研究室、グループ研究室を整備。また、多くの閲覧・学習デスクを配置。 ⑤環境に配慮した取り組み「ZEB Ready」の認証を取得。建設工事のために伐採した樹木を有効活用。 |

| | |
|------------------------------|--|
| <p>3 事業の効果</p> | <p>令和5年の開館後、それまでの図書館本館の利用状況と比較すると、20歳代の利用が4.5倍と大幅に増加し、30代以下の利用者数が大変な伸びをみせた。また、親子利用者も増加しているとのことである。このことから先に述べた、ニーズに合わせたゾーニングや長時間滞在を可能にするサポートとしてのカフェの工夫が市民に受け入れられている。</p> <p>利用者目線での配架という点も見逃すことはできない。1階は親和性の高い分野、2階は児童書や中高生向けの本、暮らしに身近な分野といった方法で、必要な本を探し易い配架となっている工夫も事業効果を上げる役割を果たしている。</p> |
| <p>4 事業の現時点での課題及び今後の方向性</p> | <p>現在の事業の先にある課題として、世の中に出回るフェイク情報に惑わされない視点を育てる事業（図書館の機能と職員の人材育成）を行いたいとの発言がされた。知の拠点という役割を持つ図書館の新たな視点として、示唆に富む発言であった。</p> |
| <p>5 主な質疑・応答</p> | <p>Q：再整備が必要だった理由は A：旧施設は老朽化と機能不足により、中央館としての役割を果たせず、従来型の図書館像が利用者層を限定していた。</p> <p>Q：施設コンセプトは A：「地域創造の中核となる図書館」。市民活動や交流を支える拠点として位置づけている。</p> <p>Q：立地選定の考え方は A：駅近、公園一体、市有地活用という条件を総合的に判断。</p> |
| <p>6 考察 (所感・本市への提言等)</p> | <p>今回の視察の前提として、本市に於いて長年の課題となっている図書館の在り方について、10年20年を見越した未来の本市にあるべき図書館、つまり市民の知の拠点を議会として行政へ提言を行うという意思の下に行った。これは、せとまちトークの中で市民の方々から政策資源として頂いた意見でもあり、当委員会として調査研究課題として取り上げたものである。</p> <p>その視点からまとめると、武蔵野プレイス、多摩市立中</p> |

| | |
|--------------------------|--|
| | <p>中央図書館の両施設に共通する点として、図書館を単独として考えるのではなく、多様なニーズに応えることのできる複合型施設であること。具体的には、子育て支援、学びの場、交流の場、快適な居場所機能を備えていることである。</p> <p>次に立地としては、利便性とにぎわいを担保するため、駅前、駅近を活用していることが浮き彫りとなった。</p> <p>これら明確に確認された事実を基本に、今後は本市にあるべき図書館の理念、市民が必要とする図書館とは。といった観点で提言に向けた取り組みを進めたいと考える。</p> <p>当然のことながら、施設の規模や立地条件、財政規模の違いは大きいという事実はあるが、施設に対する設計や運営に込められた理念は本市にとっても実践可能である。</p> |
| <p>7 その他 (特記事項等)</p> | |